



からしだね

2018年5月号
(538号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



本号の記事の主題など

ノノイ・プラザ神父による巻頭言

「マリアさまの月となりました！」

主は復活された・洗礼式と初聖体の喜びも添えて

あたたかな春の風

洗礼を受けて

不思議なお導き・・・神様に感謝！

池田・日生中央教会合同黙想会を開きます

新しい本が届きました

島基幸神父様が一年余のサバティカル研修へ

島神父様の思い出

「聖書百週間」

島神父様への感謝

お帰りをお待ちします

島神父様と大人の日曜学校

巻頭言のリストとその1篇

稲葉善章神学生が終生誓願を宣立

第11期アルファ・コースを始めます

本の紹介・・・世界にたった一つの絵本

大人の日曜学校だより

みんなの談話室

信徒総会を開催します

5月のカレンダーへの追加

巻頭言

マリアさまの月となりました！

ノイ・プラザ C.P.

国民のうち、かなりの人がカトリックになっている多くの国では5月は特別な月です。伝統的におとめマリアにもつばら献げられてきたからです。もちろん被昇天の祝祭がある8月に盛大に聖母のお祝いをするのは確かにあります。それに9月8日にはお誕生日もしっかり祝います。師走の8日には、厳粛な穢(けがれ)れなき御宿りを毎年称えることもしますね。けれども毎日が母なるマリアさまに献げられる5月にはかなわない。

それにしてもどうして5月なのでしょう。選ばれたわけは、もちろん美しい月だということがあります—自然がもっとも素晴らしく見える。たとえば5月は晴れた日が多いですが、おかげでさまざまな花が咲き誇ります。

福者ジョン・ヘンリー・ニューマンがこんな風に語ったことがあります。「人を寄せつけないほど厳しい寒さがつづいて雪がふる冬、それに大気といえは湿って冷たく風雨が荒々しい初春がおわると、大地がさっと爽やかな枝葉を伸ばし緑の草がパツと芽を吹くのが5月だからだし、木々が花を咲かせ、庭にも花が咲き、昼が長くなって日の出も早くなる一方、日の入りまで遅くなるのが5月なのです。屋外の世界にみられるそのような喜びと愉悦は、神秘のバラ、黄金の家であるマリアさまにわたしたちが献げる献身的な愛にぴったりのお供なのです。」

こうした理由があればこそ、わたしの国フィリピンのように各家庭の裏庭や畠から摘んできたばかりの花で、毎日マリアさまを飾ることが多くの国でもおこなわれるのです。ほとんどの教会で子供も大人も祈りと花々を5月のあいだじゅうずっと、マリアさまに毎日献げます。これはおそらくフィリピンにおける初

期キリスト教の時代にまでさかのぼる典礼的慣習なので、今日に至るまでも熱心に実践されてきました。

もっと言えば、5月はキリストの御復活という喜ばしい季節にも入っています。教会はまだ幼く、その歩みを導いてくれる深い信仰と知恵をもつ誰かを必要としたとき、マリアさまがそこにいたのです。ベネディクト16世教皇がいみじくも言いました。「主の御復活のあと、マリアさまがいっしょだったことに励まされた使徒たちはともに残留し、イエスが御昇天なさったあとは、マリアさまとともに倦むことなく聖霊降臨を切望して祈ったのである。使徒にすればマリアさまは母であると同時に教師でもあり、その役割を彼女はあらゆる時代のキリスト教徒のために演じ続けることになる。」

ですから、わたしたちが奮い立つような示唆に富む言葉をパウロ6世が語られたのももっともなのです。「わたしたちを喜ばせ慰めてくれる5月と結びついたこの敬虔な慣習は、おとめマリアに敬意を払い、これほどの豊かな恩恵をキリストを信じる人たちにもたらしてくれます。マリアさまは、わたしたちをキリストへと導いてくれる正しい道だと考えられるからこそ、マリアさまに出会う人はキリストにも同じように出会わざるを得ないのです。」

母のようなマリアさまの保護に自分自身を委ねましょう。マリアさまへの祈りをとおして、信仰の旅をつづけるわたしたちを聖母が導きとりなしてくださいように。

聖母マリア、わたしたちのために祈りたまえ、アーメン！

5月のガラスケースのことば

天は神の栄光を語り、大空は御手の業を示す

詩篇19・2～5

主は復活された**洗礼式と初聖体の喜びも添えて**

聖土曜日の3月31日19時から、復活の聖なる徹夜祭のミサが畠基幸神父様の司式により、黄泉のような闇に包まれて始まりました。神父様方や侍者、信徒たちの持つろうそくの光がゆらめき、祈りと聖歌が捧げられたあと、一転して聖堂内は光にあふれ、主のご復活が宣言されました。主は復活された！主はよみがえり、栄光に包まれました。ご復活の喜びが満ち満ちている中で、池田教会は3人の洗礼志願者を迎え入れ、畠神父様により洗礼式が執り行われました。

受洗された3名の方々にミサに与った信者の皆さんからお祝いの拍手が起きました。

池田教会が魂のふるさと、心のよりどころとなりますように。そして、主の愛に覚え、これからますます信仰を深めていかれますように。

翌朝の4月1日復活の主日には、畠神父様により3名の幼児洗礼式が行われました。また、復活の主日に初聖体を授けられた子供たちは2人です。神様の愛に包まれて、健やかに成長されますように。

復活前夜祭で受洗された方がたの喜び**あたたかな春の風**

Y.T.

あたたかな春の風が吹いてきています。

主のご復活、おめでとうございます。

神様の不思議な、不思議な計らいがあり、導かれて洗礼の日を迎えることが出来ましたこと、心から感謝致しております。

神父様、シスター、代父母の村嶋さん、関さん、お勉強会の仲間、教会の皆さんに見守られ支えられて、洗礼を授けて頂き、とても有難く幸せに思っております。

今もまだ胸がいつぱいで、うまく言葉にならないのですが、私は幸せに満たされると同時に孤独のようなものを感じていました。それは決して淋しい孤独ではなく、一人でしっかり立って神様の前に歩いて行く覚悟を持ったということなのでしょうか……

神様に向き合うときは皆一人ですが、素晴らしい出会いや交わりがあり、大きな恵みに包まれていることをうれしく思っております。

私が愛するよりもはるかに大きな愛で愛さずにはいられない、と私を招いて下さっている神様の愛に忘れて、神様に信頼し、委ねて、いつも喜びを忘れず、絶えず祈り、どんなことにも感謝する心を大切に持って、神様の道を歩んで生きていきたいと思えます。

洗礼を受けて

S.O.

3月31日の復活徹夜祭で洗礼を受けることができました。

教会との出会いは、東京に住んでいた2002年、麻布教会で結婚講座を受けたことに始まります。そして、麻布教会にてあたたかな祝福のもと、挙式することができました。

6年前、福岡へ転勤した際に、子供が笹丘カトリック幼稚園に転園となり、それを機会に、毎週日曜日、家族4人で笹丘教会のミサに通うようになりました。

4年前には妻の実家近くの宝塚に戻り、義父母と一緒に池田教会のミサに通うようになり、2年前には、子供2人が畠神父様から洗礼を受けました。

また、仕事で独身の頃と結婚後、2度イタリア研修に行く機会がありました。その折にミラノ大聖堂（ドゥオーモ）、バチカンのサン・ピエトロ広場、サン・ピエトロ大聖堂、バチカン宮殿、バチカン美術館などを観光で訪れました。その時には、壮大な景色や建物や美術に感動しながら、なぜだか心安らかな気持ちになったことを覚えています。今思えば、神様が自然と教会に触れる機会を与えて下さっていたのではないかと感じています。このように自然と神様のお導きがあり、カトリックの道を選ぶことができた心から嬉しく思っております。

この度は、たくさんの方々から受洗のお祝いのお言葉をいただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして、お忙しい中スケジュールを合わせてご指導くださった畠神父様に心から感謝いたします。そして代父を急をお願いしたにもかかわらず快く引き受けてくださったR.Y.さん、ありがとうございました。

これから池田教会の家族の皆さんとともに信仰の道を歩み続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

不思議なお導き・・・神様に感謝！

S.M.

2018年3月31日の復活前夜祭に、この池田教会で洗礼を授けていただきました。たくさんの方からの祝福に神様の不思議な導きを感じています。この洗礼に至るには、妹の存在が大きかったと思います。

私は、二人姉妹で二つ下の妹がいます。妹は、小さい時から勉強もスポーツもよくでき、優しくてみんなから慕われるリーダー的存在でした。それに引き換え私は、勉強が嫌いで落ち着きがなく、忘れ物も多くおしゃべりばかりしているので、先生からよく注意をされていました。私は、劣等感を感じつつも妹に憧れていました。そんな妹がミッション系の大学に通っている時に、生き方に迷い祈り、教会に行くようになりました。その後、病気になり入院を繰り返しています。勉強が苦手で成績も悪く自分中心の私が仕事に着き、家庭も与えられていること、能力もありとても優しく誰からも好かれていた妹が入院をくりかえしていること・・・。「どうして妹がそんなに苦しまないといけないの？」という思いから妹の「生」と自分の「生」について悩むようになり、そんな中、憧れていたマザーテレサについて書かれた本から、24歳の若さで亡くなった修道女リジューのテレズの存在を知ることになりました。その時「霊的幼子の道」と呼ばれるテレズの小さき道と妹の「生」と深く結ばれていることを感じました。それから、いくつかの教会を訪ねましたが神様とつながることができず、気がつけば傲慢な自分中心の生活を送っていました。心の奥で「もう

少し待って！」と神様のことを先送りしている弱い私がありました。

5年ほど前から、妹の病気が悪化し、神様が私を強く呼んで下さっていることを感じました。祈りの中で、池田教会が与えられ、畠神父様を訪ねていました。はじめて出会う神父様に「洗礼を受けたいです。導いて下さい」とお願いしました。（今思えば、あまりにも唐突でびっくりされたと思います）畠神父様は優しい笑顔で、「これから、勉強して行きましょう」とおっしゃって下さいました。そして、一年前の4月、全く知っている方がおられない池田教会の御ミサの後「来年洗礼を受けたいと思います。皆さんどうぞお祈り下さい」と伝えました。不安で心臓がドキドキしましたが神様が、背中を押して下さいました。その後、売布の修道院のシスターとの勉強会やアルファコース、朝の御ミサ・・・と神様がつながって下さった不思議な出会いがありました。たくさんの方に祝福され迎えた復活前夜祭に、妹が教会に行くことを反対していた父、人生の後半を妹に捧げたいと願う父が来てくれたことに大きな喜びを感じました。

お祈りをしながらこの原稿を書き進めている今、私の内で私の罪と自己愛で苦しまれ亡くなられたイエス様が「今、ここにいる」と言って下さっていることを深く感じる事ができました。妹を通してリジューのテレズから教えていただいたイエス様に全き信頼をおく小さき道を、一步一步歩んで行くことができますようにどうか皆様お祈り下さい。この池田教会に導いて下さった神様の不思議な導きに、感謝！

池田・日生中央教会

合同黙想会を行います

- 日時：5月22日（火） 午前10時～午後4時
- 場所：宝塚黙想の家
- 費用：1,000円
- テーマ：「共同体と信仰」
- 指導司祭：川邨裕明神父
（カトリック芦屋教会）
- 事前申込制。申し込み、問い合わせは廣瀬または研修委員まで。

研修委員会

新しい本が届きました

全面改訂版「教会の聖人たち(上、下)」
池田敏雄著、サンパウロ刊

半世紀近く前に出版された人気の旧版が全面的に改訂されました。聖人伝は毎年新しい聖人が加わります。著者が2年かけて一人ひとりの聖人を物語として印象的に著わしました。返却する際には「新着図書」にお戻しください

研修委員会

島 基幸神父が一年余のサバティカル研修へ

御受難修道会準日本管区は2017年度末に東京修道院を閉じて、売布に退任した修道士のための新しい施設を建設しただけでなく、大阪教区の小教区教会の司牧が主任司祭を中心とする体制に移行する4月1日を期して大幅な人事異動を行いました。その結果、池田教会の11年余続いた司牧チームから島基幸神父が離任し、中村克徳神父は日生中央教会の主任司祭に転じ、ノイ・プラザ神父が池田教会の主任司祭となられたのです。

島神父様は月末からサバティカルでイスラエルやフィリッピン、米国、ミャンマー連邦などの研修旅行に発たれますが、これまでの11年間にわたしたち信徒の全てに分け隔てなく、笑みを絶やさず、イエス様に倣って、それぞれの霊性(内的原動力)であるいのちを高めるように、また、揺るぎない信仰を抱くように励ましてくれました。4月1日の復活祭パーティと研修の為に発たれる島

神父の壮行会は主の復活のお祝いと神父に対する感謝や一時的なお別れ、長期旅行の無事を祈る言葉が至る所で聞かれました。

11年余の間で島神父に接した信徒の方々から届いた寄稿文と池田教会に赴任された2006年11月から今日までの印象深いスナップ写真の一部をご覧ください。

また、島神父は「からしだね」の巻頭言コーナーに42篇を書かれました。その総字数十一万語を越す全文を読み直すと、どの一篇も執筆に時間をかけた力作であることに気づきます。当時、受洗間がない読み手にとっては文意を掴めなかったにせよ、今、内に霊性が育まれるに到ったことを知り、島神父がわたしたちを辛抱強く励ましてくださいました。その42篇の巻頭言のタイトルと最も短い一篇の全文を最後に再掲します。

島神父様の思い出

福音宣教委員会

島神父様 池田教会での長らくのお勤め、ご苦労様でした。

連日の忙しさにもかかわらず、私達を大きな愛をもって導いて頂いたこと心より感謝致します。しばらくはゆっくりとご静養していただき、いつの日かまた池田教会へ帰って来られることを期待しています。

さて、私にとって島神父様との関わり、思い出として一番心に残っているのは「アルファ・コース」ではないでしょうか。神父様に遅れること5ヶ月、日生中央教会から池田教会に転籍したのは2006年4月でした。

教会にも慣れた約一年半後(2007年8月)、神父様から松下さん「アルファ・コースのリーダー講習会」があるんだけど受けてみませんかのお誘いをいただきました。「アルファ・コース」って聞いたこともなかった言葉でしたが、生来の好奇心にまかせて行ってみようかなと思い受諾した次第です。

南大阪福音教会(富田林市)での「リーダー養成講習会」は9月1日でした。参加者は54名でしたが、カトリックからの参加者は僅か4名(うち神父2名)であれ!このコースはプロテスタント信者のものではないのかと思ったのですが、カトリックでも導入初期とのことで納得、丸一日間我慢して

その概要(アルファの原則、実際、運営方法等)について学んできました。

さてこれを池田教会に導入するにはどうすればよいのだろう。その後約7ヶ月間、神父様をはじめ、福音宣教委員の皆様と案を練り、第1回目(奥さんが信者でご主人が未信者の方を対象)をスタートしました。試行錯誤しながらもヘルパーの皆さんの協力を得、一年目を何とか終了することが出来ました。

未信者のご主人も奥さんへの理解度がかなりアップしたのでしょうか、殆どの方がその後受洗されました。嬉しかったですね(私もそうでしたから)。その後、今年で10回目を終え、このコースも受講生が66名(信者も含む)、受洗された方も今年の2名を含めて18名となりました。

思えば10年前、神父様が私に蒔いてくれた一粒の種が、多くの皆さんから援けの肥やしをもらい、池田教会に発芽、芽は徐々に成長、そして花が咲き、実を結ぶまでになりました。

「アルファ・コース」は島神父様が池田教会に残された大きな遺産の一つだと確信しています。信仰に関しては本当に未熟だった私を、「アルファ・コース」は大きく成長させてくれました。心を開いて話せる沢山の友を与えてくれ、また、ガンベルさんのDVDは何十回見たことでしょう。見るたびに新

しい発見、新しい夢を抱かせてくれます。

そんな夢を与えてくれた畠神父様。いつまでもお元気で「池田教会」を、そして「アルファークース」を見守って下さいね。

有難うございました。

「聖書百週間」

R.H.

両親が亡くなって時間に少し余裕ができたのをきっかけに、デニス神父様の「聖書百週間」のグループに入って、聖書を継続的に読むようになりました。一人ではなかなか読み続けることは難しく、気が付けばもう15年近くたち、デニス神父様が長期入院された間も、退院を待ちながら私たちで続けることも何度かありましたが、最終的にデニス神父様の復帰がご無理となって以後は、畠神父様のご指導を受けて3月まで続けたのも神父様のサバティカルで終了となりました。

デニス神父様は幼稚園での出来事や、以前学ばれたイスラエルでのエピソードなどをはさみながら、興味深く楽しい時間を下さいました。畠神父様は今月末にもイスラエルへご出発とのことで、そこで学ばれる聖書世界のお話をいつかまた伺う機会があることを楽しみに期待しつつ、お勉強が順調で多くの実りを携えてお帰りになる日をお待ちしています。

畠神父様への感謝

T.M.

池田教会11年間の司牧に携わって下さってありがとうございました。神父様とごいっしょしました病者への御聖体訪問は、私にとって大きな聖霊の賜物であったと信じています。教会にいらっしゃることが困難な方、ベッド生活を余儀なくされている方を訪問させていただきました。神父様はいつもそのような方々を暖かいまなざしで包まれ、ご聖体を捧げられ、祈られました。最初、訪問を受けた方々はどなたも緊張感から表情も硬く、違和感がおありでしたが、お祈りしていくうち、みるみる明るいお顔の表情になられ、御聖体拝領後は「ありがとうございました」と涙をいっぱい浮かべ、神様そして神父様への感謝を述べられました。ともに祈り、慰め、励まし、助けていかれるお姿は病者の方々にどれほど希望、勇気、慰めを与えたことでしょう。

4月29日から海外へ出発されるとのことです。新しい分野でのお勉強、司牧のお仕事も沢山おありとか。生活環境の違いからお体にさわらないかと心配しています。どうぞくれぐれも御身大切に精励下さいますようにお祈りいたします。最後に私たち池田教会の共同体の人々のためにもお祈り下さることを信じ、送別の言葉といたします。

お帰りをお待ちします

日曜学校リーダー

畠神父様は、長い間、青少年育成に関わり、サポートして下さいました。

毎年夏のキャンプに参加して下さり、毎月の小学生のお泊り会に出席して下さいました。日曜学校の始業式、終業式に子供達にお話しをして下さいました。長い間お疲れ様でした。子供達は神父様が帰って来られるのを、楽しみに待っています。

畠神父様と大人の日曜学校

研修委員会

大人の日曜学校は、一昨年、門秀子さんが研修委員長の時にはじめられたのがきっかけでした。おもにセブンスステップを使った聖書のわかちあいと門さんが考えた企画をいれながら始まりました。二年目は、委員長がかわり聖書のわかちあいを中心として3年を迎えています。

いつのころからか畠神父様がセブンスステップのやり方を教えて下さり会のはじめにとり入れることを勧められました。そのセブンスステップも、回を重ねるごとに魅力を感じるようになりました。実際には、はじめはその良さに気づくことはありませんでしたが、最近はだんだんそのよさを深く感じています。セブンスステップではなくファイブステップになっていることも多いのですが最初のゆっくり聖書を読みこころにひびきみことばを分かち合うことは、大切にしています。

福音をミサのとき一回だけ聞くのはもったいないと思います。もう一度ゆっくりと聞きわかちあいをするといつも新しい発見があります。畠神父さまがセブンスステップを推奨されたお気持ちができるように思います。小さな集まりですが畠神父様が教えて下さったセブンスステップを大切に続けていきたいと思っています。

年 号	巻頭言の表題 (巻頭言本文をお読みにになりたい方は広報委員に申し出てください)
2007	413 就任の挨拶
	416 主の復活おめでとうございます
	419 『ダ・ヴィンチ・コード』をもたらした時代風景
	422 もうすぐ1年になります
2008	425 初夢から
	428 回勅「希望による救い」読書の薦め
	434 “みことばが肉となるように”
2009	437 堅信の秘跡
	443 朝の祈りを共に
	446 クリスマス・キャロルのメッセージ
2010	448 「再び、生氣あふれる教会に向かって」
	451 4年目の信徒総会を前にして
	454 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)
2011	458 見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。その名は、「神は我々と共におられる」という意味である。(マタイ1:23)
	460 「兄弟たち、わたしたちはどうしたらいいのですか？」(使徒2章37節)
	464 暑中お見舞い申し上げます
2012	468 「天のいと高きところには神に栄光、地には善意の人に平和あれ」(栄光の賛歌、ルカ2章14節)
	472 「信仰の年」を迎える準備～新しい福音宣教の呼びかけにこたえよう～
	476 「この時のためにこそ」(エステル記4章14節b)
2013	479 「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。(中略)この子は自分の民を罪から救うからである。」(マタイ1章21節)
	482 A Happy Easter! ご復活祭 おめでとうございます
	484 子供の心に導かれて信仰の山、エベレストの頂上を目指そう
	488 信仰年の実りを思う
2014	491 キリストに魅せられた者の姿へ - 今年のビジョンを思う
	497 アフリカの熱い復活信仰に触れて
	500 「義のために迫害される人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである」(マタイ5章10節)
2015	503 「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」(詩篇133、1)
	509 「新生計画 20周年の振り返りは、新生福音宣教への目覚めの時」
	510 セブンスステップ - さらなる深みを目指して
2016	512 池田教会創立60周年を迎えて
	515 キリスト者のアイデンティティー洗礼の恵みを喜び祝おう
	519 子供たちのために、涙はいつくしみの泉となるように
	521 聖年の門が閉じられる前に

2016	522 「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。誰かわたし声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。（黙示録 3章20節）
2017	524 ユスト高山右近の列福に際して思うこと 526 主の復活の命に向かってポストモダンとパラダイムとライフスタイル 528 聖霊降臨祭に際して「右近の霊性を学ぶ年」に思うこと。「わが魂は、天地万物の創造者なる御主をひたすら慕い奉る」 530 天から恵みの雨が降るとき 532 死者の月、「み名が聖とされますように (Hallowed be thy name)」 533 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、み心にかなう人にあれ」(ルカ 2章 14節) — クリスマスは、神の愛の秘跡を祝う —
2018	535 「Stories are windows to the heart (物語は心を開く窓です)」 Denis McGowan, C.P. 536 聖なる過越の三日間に向けて — 「人の子は人々の手に引き渡されることになる。そして殺されるが、三日目に復活する」 (マタイ 17:22 - 24)

池田教会新聞515号(2016年4月)

キリスト者のアイデンティティ

— 洗礼の恵みを喜び祝おう

アレルヤ アレルヤ 主の復活 おめでとうございます。

いきなりですが、キリスト者のアイデンティティとは何でしょうか？ すぐに答えられますか？ 思いつくのは、洗礼の恵みを受けた人と答えるのが一番手っ取り早いかもしれません。

「アイデンティティ」という言葉は、「(わたしはわたしである) 自己同一」などの訳では日本語になじまないですが、私は誰であるか、わたしは何者なのかという問に対する答えのことです。ある人にとっては、自明的なことで、いわゆる個人情報の中で、名前があり、住所があり、職業があり、学歴があり、家族と身体的特徴と血液型と趣味や性格などが分かればそれでその人が分かったような気になるかもしれません。でも、それらは社会的文化的なアイデンティティの基盤ですが、その人の人格が分かるわけではありません。その人の人格に影響を与えたことはあるかも知れませんが、大きく影響をあたえるのは出会いでしょう。私たちの生涯は、出会いに始まり出会いに終わる一生ともいえます。母親に出会ってから父親に、そして兄弟姉妹に、さらに世界は広がり、さまざまな人間環境、人間模様の中に投げ込まれ、もまれながら自分は誰で何を望むのかを模索しながらアイデンティティを獲得していくことになります。そして、信仰者にとって、このアイデンティティの形成の中で、決定的なのは、「あなたはわたしを何者だと言うのか」という問いがペトロたちに投げかけられました。あなた

にとってわたしはどういう存在なのか？ ティベリウス湖畔では、イエスはペトロに「あなたはわたしを愛するか」と三度言われました。これらの問いは非常に個人的な直接的な質問です。「主よ、あなたは何もかもご存知です。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます(ヨハネ21:17)」。この答えは、ペトロの永遠のアイデンティティとなりました。

ある人にとっての特別な出会いやことばが、その人の一生を方向づける意義となり、そのために献身していきます。キリスト者にとっては、キリストの復活に与る洗礼によって生き生きとした希望を与えられることが(1ペトロ 1:3)、信じる者の存在的なアイデンティティ、キリスト者の人格、となるのです。

キリスト者にとっては、「生まれながらのキリスト者 (Born Christian)」というのではないのです。聖アウグスティヌスは、「私たちはイースター(復活祭)のキリスト者、ハレルヤ(主に賛美)は私たちの歌」と洗礼の恵みを喜びましたが、それは「私と主との出会い」の時の喜び、つまり、「あなたはわたしを誰と言うのか」と問われて、「あなたはメシア、油注がれた救い主、イエス・キリスト」と告白して、その生涯をキリストの存在に明け渡し、「主の愛」、聖霊によって生かされる喜びに満たされた表現でした。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか(ルカ 15:32b)。私たちは御父の祝宴の喜びに与るアイデンティティを頂きました。

洗礼をうけられた皆さま おめでとうございます。アレルヤ、主に賛美!!!

稲葉善章神学生が終生誓願を宣立



復活節第三主日である4月15日のミサは、御受難修道会にとって、また池田教会の信徒にとってまことに喜ばしいものとなりました。山内十束準管区長様が司式され、御受難会の大勢の神父様、助祭様、神学生が列席なさった終生誓願ミサの中で、御受難修道会のヨゼフ稲葉善章神学生が終生誓願を宣立されました。終生誓願の証人となられたのは、山内十束神父様に加えて、ナザリオ・プラザ神父様と國井健宏神父様です。

ヨゼフ稲葉善章神学生は次のような修道誓願を立てられました。

「私は神の呼び声にこたえ、聖霊の愛に動かされて十字架の上のキリストに全存在を上げて従うことを望みます。

そのため、準管区長山内十束神父様およびご列席の兄弟たちの前でわたしは御受難修道会の会則に従って、生涯の貞潔、清貧、従順を誓い、

また、主の御受難の神秘を人々に告げ知らせることを誓います。

聖母マリアと十字架の聖パウロの祈りに支えられて、神と人々に仕える者となり、神の国のあかしができるよう、わたしは、この修道会で神に身をささげます」

山内神父様はお説教で、復活節に寄せて、イエスの復活について語られました。イエスの復活に物的証拠はないけれども、イエスの弟子たちはイエスの復活を証言し、御復活の証人となった。私た



ちも証人となる道を歩んでいかなければならない。終生誓願を立てるといことは、御受難と御復活の証人、あかしびととなったのだ、と。

稲葉神学生は挨拶で、感謝の言葉とともに、御受難を胸に刻み、皆様とともに歩んでいきたい、皆様のお祈りを願います、と述べられました。

ミサ後に行われた祝賀パーティはなごやかなムードに満ち、信徒たちは各地から集まられた神父様方と歓談を楽しみました。子供たちが稲葉神学生にインタビューを試み、苦手なものはなに、と質問すると、ヘブライ語の習得という答えが返り、なるほど、と皆うなずきました。稲葉神学生はアントニオ神学院の最後の一人となる神学生だそうです。多くの教師に囲まれて個人授業を受けるというぜいたくな環境で勉学に励んでおられます。稲葉神学生は今後司祭への道を歩まれる予定なので、評議会議長が将来は池田教会へ来てください、と熱烈なラブコールを送ったところ、準管区長のお許しがあればぜひ、というお返事に一同大喜びしました。神の大きな恵みに感謝した一日でした。

稲葉善章神学生の略歴

- ・昭和41年8月3日、横浜市で生まれる。
- ・平成5年の復活祭に横浜教区戸塚教会で、スカポロ会のジョン・カーティン神父様により受洗。カーティン神父様とウオード神父様が親しい仲だったので、受洗準備のためにウオード神父様の黙想会に参加したのが、御受難会との出会いとなった。
- ・平成26年3月23日 初誓願
- ・現在は東京のフランシスコ会アントニオ神学院で勉強中。

第11期アルファ・コースを始めます

アルファ・コースも2018年度で11回目を迎えることになりました。下記に示すように一昨年度から、年齢に関係なく、いつでも、どなたでも、参加できるフリー・スクールとして開講しております。

イエスとは？、キリスト教とは？、聖霊とは？等、原点に戻って謙虚に学び直すことは私達にとって非常に大切なことではないかと考えます。知らなかつたことや忘れていたことがニッキー・ガンベルさんの教材(DVD)の中には一杯あります。

一方、Sr.渡辺和子の教材「キリストの香り」(DVD)は人間として大切なことを教えてくれる最適の教材ではないでしょうか。教材(DVD)を見、お茶を飲みながら感想を話し合ったり、互いの人生経験を語り合ったりするざつぱらんな分かち合いも、お互いの人生観を高め、少しでも心を豊かに成長させてくれるものと確信します。

ご家族の中で、或いはお友達でイエスさまについてもっと勉強してみたいと思われる方、人間として少しでも成長してみたいなど思っておられる方、大歓迎です。

夏休み、正月休み等も設けております。人生にとってはほんの一時、皆さんと親しくお付き合いができればこんなに嬉しいことはありません。気楽にご参加していただければ幸いです。これまでに受講された方も、復習の意味もこめての再受講も歓迎します。

○開催日：平成30年4月21日(土)～

原則として第1、第3土曜日

○時間：AM10:00～PM1:00

○場所：池田教会、カール記念館1階集会室

○会費：500円(昼食代を含む)

Sr.渡辺和子：約200万部のベストセラー「置かれた場所で咲きなさい」の著者で、ノートルダム清心学園理事長をされておられましたが、一昨年暮れ惜しくも天国に召されました。ご冥福をお祈りします。

アルファ・コース世話人(代表：松下 良博)

問い合わせ先：松下 Tel 072-751-0160

DVD鑑賞のスケジュール

右段の表の2列目はコース名の略称です。鑑賞する教材のタイトルはコースによって異なります。

Sr 渡辺：Sr.渡辺和子の「キリストの香り」

アルファ：ミッキー・ガンベルさんのアルファ・コース

月・日	コース	タイトル
4/21	Sr.渡辺 アルファ	いつも喜んでいなさい キリスト教とは？
5/19	Sr.渡辺 アルファ	絶えず祈りなさい イエスとは？
6/2	Sr.渡辺 アルファ	どんなことにも感謝しなさい イエスの死とは？
6/16	Sr.渡辺 アルファ	人生の穴と向き合う 確かに信じるとは？
6/30	Sr.渡辺 アルファ	置かれたところで咲く 聖書を読むには？
7/7	Sr.渡辺 アルファ	ごたいせつの愛 神に祈るとは？
9/1	Sr.渡辺 アルファ	真の優しさ 神の導きとは？
9/15	Sr.渡辺 アルファ	自分を愛するということ 聖霊とは？
10/6	Sr.渡辺 アルファ	一人一人の魂への 聖霊の働きとは？
11/3	Sr.渡辺 アルファ	ほほえみの力 聖霊に満たされるとは？
11/17	Sr.渡辺 アルファ	赦し、 悪に対抗するには？
12/1	Sr.渡辺 アルファ	小さな死 イエスを伝えるとは？
12/15	Sr.渡辺 アルファ	ていねいに生きる 神の癒しとは？
1/19	Sr.渡辺 アルファ	善き死のために 教会とは？
2/2	Sr.渡辺 アルファ	クリスマスの心、 人生を最高に生きるとは？
2/16	Sr.渡辺	四人目の博士、 幸せのひけつ、夜は近きあり
3/2	Sr.渡辺	善く生きるために、人間理解 について、聖所持って生きる
3/16	Sr.渡辺	祈り、天との契約、傷とキリスト

本の紹介 世界にたった一つの絵本

「クリスマスのあひる」

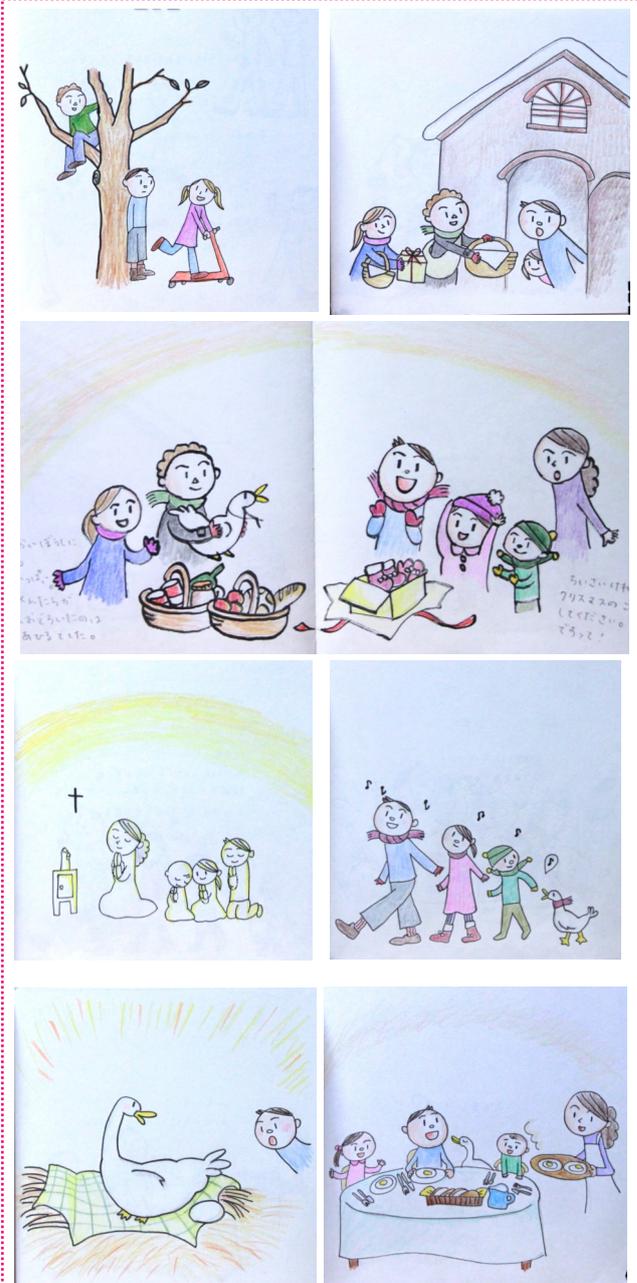
ある日広報のメンバーの1人が「教会の人が作った世界にたった一つの絵本、見る？」と渡してくれました。「世界にたった一つの…」と言うのはよく耳にするキャッチフレーズで、大げさな言い方だと常々思っていました。でもこれは本当に一冊しかないのです。手描きの手作りの本当に「世界にたった一つの絵本」です。

題は「クリスマスのあひる」です。お父さんが病気で貧しい暮らしをしている11歳のジミー君という少年が、近所の人からクリスマスのご馳走にとあひるをもらいます。さて、ジミーくんたちはあひるを食べたのでしょうか…？

気がつかれた方がいらっしゃるかもしれません。主人公のジミー君はデニス神父様です。神父様が幼稚園で話された話をN.Y.さんが絵本にされたものです。

優しい本です。話はもちろんですが、ここに描かれているみんなの顔がなんとも言えず優しいのです。驚いた顔、寂しい顔、それぞれの表情がたった一本の線で描かれています。その一本の線が縦になったり横になったりカーブしたりして、感情というかその表情をうまく捉えています。私が一番好きなページは家族がお祈りをするところです。3ページありますが、お母さんの座り方が微妙に違います。その中の一枚が、お母さんのスカートの裾がコルネパン(ご存知ですか?)の形になって私はとても気に入っています。心がやわらかくなります。ぜひ一度ご覧下さい。本はカール記念館1階の新刊図書コーナーにあります。

H.A.



作者のことば

この絵本をデニス神父様にお捧げします。

クリスマスが近づくと、神父様がよく聞かせてくださったお話、みなさんも大すぎだと思います。

これを描いた時は神父様に手渡しでプレゼントするつもりでした。なんならアメリカまで持って行ったっていい、と思っていたのです。

今度はみなさんと、分かち合えたら嬉しいです。これから大きくなる子ども達や、これから生まれてくる子ども達もこのお話を大すぎになってくれたらいいな、と思います。

N.Y.

大人の日曜学校だより

3月 福音の分かち合い

「主がお入り用なのです」 マルコ 11・1～10

25日は、枝の主日のミサで入堂前の福音を読みわかちあいをした。ここに出てくる民衆は、ついさっきのミサの福音の民衆と同じなのだろうかと驚く。

イエスがエルサレムに入られる時、民衆は自分の服を道に敷き「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように」と熱狂的に迎える。その民衆が少し後には「十字架につけろ」と叫ぶ。「自分が期待したような王ではなかった」とわかった時の心変わり。「民衆はこわい」と思うが、それがそのまま私でもあると思知らされる。

そんな箇所でポツと輝いてみえるのが、子ろばである。イエスさまがお乗りになって大丈夫かしらという心配をするが、そんな子ろばを「主がお入り用なのです」。この世の思いにふりまわされる民衆ではなく主が使ってください「子ろば」となれるよう祈りながら復活祭を迎えたいと思う。

(今日の分かち合いは收拾がつかないほどいろいろな話がでた。他の人を攻撃ささなければ何を言っても大丈夫。どうぞ気軽に一度参加してください)

研修委員会

2018年度 信徒総会を開催します

日時:5月27日 ミサ後
大切な行事の一つです。信徒の皆さん参加いたしましょう。

評議会

宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

5月17日(木) 10:00～15:30

指導:山内十束神父

5月18日(金) 10:00～15:30

指導:山内十束神父

■韓国語による聖書の勉強

5月30日(水) 10:00～15:00

指導:アンドリュー神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎ 0797(84) 3111



5月の教会カレンダーへの追加

5月10日、17日、24日、31日(木)

10時30分～ 聖書100週間

5月11日、25日(金) 14時～16時

福音書を学ぶ会

5月6日、14日、21日、28日(日)

13時～14時30分 入門講座

みんなの談話室



テレジア

初雲雀
空の青さを
揚がりけり

祈禱書の
かすかな折り目
聖五月

編集後記

過ぎ去った四旬節から聖週間、復活祭、復活節ではキリストの神秘を黙想し、多くの方々がキリスト者として生まれ変わったり、変容するという神秘に自らを重ねる季節であった。池田教会に新たなキリスト者を迎えて喜んだ一方で、司祭チームのお二人の神父様が別な場所への旅に発たれた寂しさを胸の内に納めた。

通信や交通、著作物を利用すれば場所と時の違いを乗り越えられるし、眼で見えない出会いも観想して新たな気づきを持てる筈。

「時は場所に勝る」に希望を託して。

インマヌエル